

減CO2クラブ

2022
No.21

センター
発

エコトン NEWS

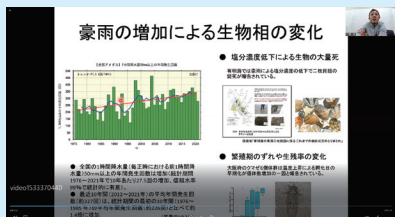
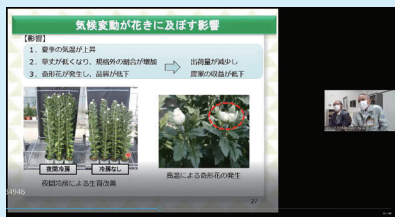


「ウィズコロナ」での普及啓発！手探りしながら前進中!!

サイエンスカフェの開催

身近な環境問題に関心のある県民を対象に、より環境問題への理解を深め行動変容を促すことを目的として、サイエンスカフェを2回開催しました。サイエンスカフェのテーマは、「農業」「生態系」とし、すでに起こっている温暖化の影響や今後起こりうる影響、その適応策について講師から情報提供をしていただきました。

1回目は、福岡県農林業総合試験場の稲田氏、山口氏から「温暖化が進む中の農林総合試験場の役割」や「高温耐性水稻品種開発の取り組み」について、2回目は、福岡県保健環境研究所の中島氏から「生物多様性保全と気候変動対策」についてわかりやすく話をいただいたあと、質問・意見交換が行われ、有意義な時間となりました。



生物多様性保全と気候変動対策についてわかりやすく話をいただいたあと、質問・意見交換が行われ、有意義な時間となりました。

推進員の皆さんも活動開始

コロナウイルス感染症は未だに拡大と縮小を繰り返しており、なかなか終息しそうにありません。ここ2年間は各地域の環境フェアなどが中止になり、推進員の皆さんの活躍の場が制限されていました。

そんな中、令和4年度は多くの市町村で環境フェアや地域のお祭りなどのイベントが開催されました。ほぼ3年ぶりに開催された地域イベントもあり、各地で大賑わい！ガラポンの景品も「あっ!？」という間に底をつく大盛況振り。

活躍の場を得た推進員の皆さんはまさに「水を得た魚」。エコふぁみアプリインストール会や温暖化防止関連のパネル展示、うちエコ診断会、環境クイズなどを精力的に企画し、地域内の推進員と協力して普及啓発に励んでいただきました。推進員の皆さん、お疲れ様でした。



エコふぁみアプリの「快適な環境スポット」が追加されました

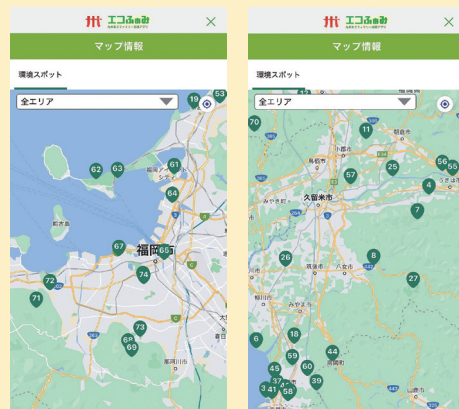
九州エコファミリー応援アプリ「エコふぁみ」のポイントが貯まる「快適な環境スポット」に19スポットがなかも入り。

朝倉市では山田堰など2スポット、久留米市では久留米市環境交流プラザ1スポット、大牟田市では三池公園など3スポット、そして福岡市ではアイランドシティ中央公園などなんと13スポットが大増殖!!

あなたの周りにも快適な環境スポットがあるかもしれませんね。

エコふぁみアプリで快適な環境スポットを見つけて、訪れてみてはいかがでしょうか。近くの場所ならCO₂の削減とあなたの健康のために散歩がてらに歩いてみてはいかがでしょうか。

さあ、みんなでポイントゲットに出かけよう。



福岡県地球温暖化対策実行計画（第2次）の策定

福岡県では、地球温暖化対策を総合的・計画的に推進するため、2017（平成29）年に「福岡県地球温暖化対策実行計画」を策定し、その取組を推進してきたところですが、近年の地球温暖化に関する国内外の動向、福岡県の温室効果ガス排出量の将来予測やエネルギーの需給見通しを踏まえ、2022（令和4）年3月に「福岡県地球温暖化対策実行計画（第2次）」を策定しました。

本計画に基づき、脱炭素社会を目指して、温室効果ガス排出削減・吸収源対策（緩和策）とともに、気候変動の影響を防止・軽減する対策（適応策）に積極的に取り組んでいきます。

○福岡県地球温暖化対策実行計画（第2次）

(<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/ondankajikkoukeikaku202203.html>)

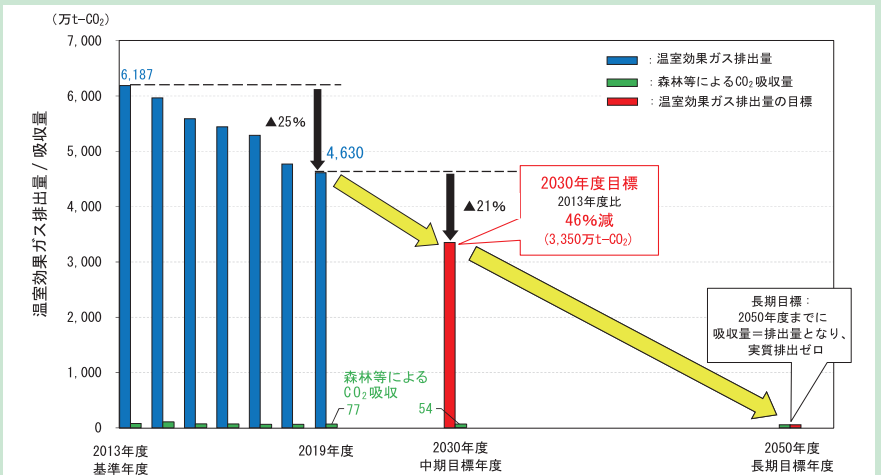


●温室効果ガスの削減目標

実行計画では、本県の温室効果ガス排出量の削減目標を以下のとおり設定しています。

長期目標：2050年度に福岡県の温室効果ガス排出の実質ゼロを目指す。

中期目標：2030年度における福岡県の温室効果ガス排出量を2013年度比46%削減する。



●主な取組

- 温室効果ガスの排出削減対策や吸収源対策（緩和策）
 - ・洋上風力発電をはじめとする再生可能エネルギーの最大限の導入の促進
 - ・カーボンニュートラルポート（CNP）の形成
 - ・水素エネルギー利活用の推進
 - ・地域の脱炭素化
 - ・家庭における取組（省エネルギー住宅の普及促進、省エネルギー機器等の導入、省エネルギー型ライフスタイルへの転換）
 - ・業務（オフィス・商業施設等）における取組（建築物の省エネルギー対策の促進、省エネルギー設備の導入促進、省エネルギー型ビジネススタイルへの転換、地方公共団体における率先的取組）
 - ・運輸における取組（電動車の普及促進、充電インフラ設置の促進、地方公共交通及び自転車の利活用促進）
 - ・産業における取組（エネルギー消費量の削減と脱炭素経営の促進、農家への省エネルギー設備の助成、「食育・地産地消費民運動」の推進）
 - ・温暖化対策に資する取組（循環型社会の推進、環境教育の推進、国際環境協力の推進）
 - ・森林の保全、都市の緑化、県産木材の長期利用 等
- 気候変動の影響による被害の防止・軽減対策（適応策）
 - ・高温耐性品種の開発と現地への普及の迅速化、「流域治水」の推進、ワンヘルスに関する普及啓発 等



気候変動影響と適応策（自然災害・沿岸域分野）

福岡県は、「福岡県地球温暖化対策実行計画」を気候変動適応法に基づく地域気候変動適応計画として位置付け、適応策に係る施策を実行しています。その中から喫緊の課題である洪水関連のものを紹介します。

● 県内の水害発生状況

平成30年7月豪雨では、地球温暖化に伴う水蒸気量の増加の影響もあったとされ、記録的な長時間の降雨に加え、短時間高強度の降雨も広範囲に発生したことで、福岡県内の各地で堤防決壊による洪水氾濫と排水能超過による内水氾濫が同時発生しました。平成16～30年の主要異常気象による市町村別水害発生件数は、一部の市町を除いて1～18回の水害が発生しています。

● 将来の水害発生予測

将来予測では、21世紀末は20世紀末に比べ洪水を起こしうる大雨事象が日本の代表的な河川流域で増加するとされています。また、河川流量の増加や短時間強雨の頻発化などに伴い、豪雨災害の発生リスクは高まっていくことが想定されています。

● 県が行う適応策

県は、洪水・高潮等による災害の発生を防止し、適正な河川利用や流水の正常な機能の維持を図り、河川流域住民の生命財産を守るため、河道や堤防等を整備します。また、県が管理する二級水系について、「流域治水協議会」を設置し、「流域治水」の全体像をとりまとめた「流域治水プロジェクト」を策定します。また、流域の特性に応じた「流域対策実施計画」を作成し、市町村における流域対策の取組を促し、「流域治水」の取組を推進します。

● 気候変動適応センターより

豪雨災害発生リスクの上昇が想定されますので、洪水に備えた対策が大切です。福岡県総務部防災危機管理局では「福岡県防災ホームページ」(<https://www.bousai.pref.fukuoka.jp/>)を作成し、緊急時に必要な情報や平常時に見て災害に備えるための情報を提供しています。特に「福岡県防災ハンドブック」は、災害に関する基本知識に加え、災害時の留意点や水・食料の備蓄方法など「自助」「共助」に役立つさまざまなノウハウが掲載されていますのでぜひご覧ください。



福岡県防災
ホームページ

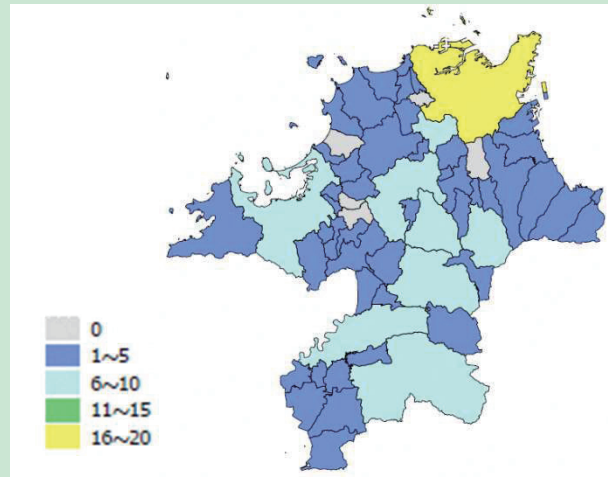


図 主要異常気象による市町村別水害発生件数
(出典：福岡県地球温暖化対策実行計画（第2次））

積極的に自転車を利用しましょう

自転車は、子どもから高齢者まで幅広い世代で利用されている身近な乗り物であり、二酸化炭素を排出しないため環境に優しく、健康増進や観光振興などへの効果も期待されます。

福岡県では、自転車の活用に関する施策を推進するため、「第2次福岡県自転車活用推進計画（令和4年3月）」を策定し、自転車の活用の推進に取り組んでいます。

これまでの取組として、自転車通勤を推進するため、企業の労務担当者向けに、自転車通勤による健康づくりや自転車通勤導入企業の事例等を紹介する「自転車通勤推進企業応援セミナー」を開催するとともに、自転車通勤の楽しさをPRするための動画やポスターを制作しました。

現在、令和5年1月31日まで※1「福岡じてつう※2チャレンジ」として、自転車通勤にチャレンジする事業者・従業員を募集しています。

チャレンジいただいた方には、景品をプレゼント！

この機会に「じてつう」を始め、自転車通勤の魅力に触れてみませんか？

詳しくは、右側にあるQRコードをチェック！

※1 定員に達し次第、受付を終了いたします。

※2 じてつう…自転車通勤の略称。



福岡県 HP



「ふくおか×自転車」
Instagram アカウント

気候変動と生物多様性

● 気候変動が生物多様性に与える悪影響

人為的な気候変動の影響としてもっともよく知られるものは地球温暖化ですが、これは生物多様性に大きな悪影響を与えます。具体的には高温に弱い北方系の生物が絶滅したり、逆に低温に弱い南方系の生物が分布を拡大したりといった問題があります。魚類を例にとってみると、九州の日本海側はカワヤツメ、ニホンイトヨ（図1）、クダヤガラなど北方系種の分布南限域として知られていますが、これらの種は1990年代以降急速に減少しみられなくなっており、その理由の一つに海水温の上昇が疑われています。一方、近年ではテングヨウジヤゴマフエダイ（図2）、タネハゼなど、南方系の魚類の発見例が増えつつあり、急速に魚類相の変化が起こっているものと考えられます。



図1 1983年に福岡市室見川で採集された
ニホンイトヨ



図2 近年目撃例が増えているゴマフエダイ

● 生物多様性の破壊が社会に与える影響

生物多様性はSDGsにおいても一項目として挙げられているように、我々の社会を持続的に発展させていく上で必要不可欠です。直接的にわかりやすいのは食糧としての存在でしょう。近年、日本各地で重要な水産有用種が激減しており、その多くは放流しても禁漁しても増えないという状況にあります。関連する産業も危機的な状況です。これは生物多様性の破壊が実社会に悪影響を及ぼしつつあることを示しています。生物多様性の悪化にはいくつもの要因がありますが、水生生物においては、水温の上昇や集中豪雨の増加による環境や水質の変化など、気候変動を原因とするものが多くあることは間違いありません。劇的に魚類相が変化していけば、当然、水産有用種の多くも減っていくことになります。

● 気候変動対策と生物多様性保全

水路や河川のコンクリート化は、間接的に、干潟や海域の生物多様性を破壊することにつながっています（図3）。そして、こうしたコンクリート化は、気候変動をより大きくすることにもつながっています。気候変動対策として重要な再生可能エネルギーの推進も、その方法を間違えれば生物多様性の破壊につながります。良好な樹林帯に造成される風力発電施設、良好な湿地帯に造成される太陽光発電施設が、生物多様性の破壊につながるという問題視されている「事件」はすでに各地で起こっています。

近年では、グリーンインフラなどの「生態系を活用した適応策（EbA）」という視点も出てきており、気候変動対策は常に生物多様性保全ともつながっていることが理解されつつあります。気候変動と生物多様性、どちらか一方ではなく、常に同時にその問題を解決することの重要性を考えていく必要があるでしょう。



図3 川底までコンクリートで塗り固めた河川